

平成25年度



学校評価



秋田県立雄勝高等学校

— 目 次 —

1 年部	1 ~ 2
2 年部	3 ~ 4
3 年部	5 ~ 6
総務部	7 ~ 8
教務部	9 ~ 10
生徒指導部	11 ~ 12
特別活動部	13 ~ 14
進路指導部	15 ~ 16
研修部	17 ~ 18
保健・特別支援・教育相談部	19 ~ 20
図書・情報・視聴覚部	21 ~ 22

重点目標	(1) 基本的生活習慣の確立 (2) 学習習慣と基礎学力の定着 (3) お互いに信頼し合える人間関係の構築	P
現 状	1年生時における生活習慣や学習習慣の定着が、3年生時の最終的な進路決定に大きくつながっているため、きちんと定着させたい。また、社会生活における正しいコミュニケーション能力も身につけさせたい。	
具体的な目標	(1) ①きちんとした身だしなみ、適切な言葉遣いを身につけさせる ②私物の管理、提出物の期限厳守を徹底させる (2) ①毎日の授業に集中して臨ませる ②苦手なことに最後まで取り組ませる (3) ①お互いに認め合い、良好な人間関係を築かせる ②集団における自分の役割をきちんと理解させ、遂行させる	
目標達成のための方策	(1) 毎日の授業や学校生活を通して指導する (2) 課題提出や定期考査への取り組みを通して指導する (3) クラス活動や学校行事を通して指導する	
具体的な取組状況	(1) 定期的な整容指導、放課後の教室巡視 (2) 課題提出の確認、定期考査への取り組み徹底 (3) クラス活動、学校行事への積極的参加の促進	D
達成状況	徹底した指導の結果、生徒は身だしなみや私物の管理に注意を払うことができるようになった。また、授業や課題に取り組む姿勢も前向きになりつつある。定期考査において欠点科目の多い生徒に対する指導が今後の課題である。	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	生徒指導・学習指導に関して、学年部で共通認識を持って指導に取り組むことができ、1年部としての目標を達成することができた。卒業後の進路決定に向けて、来年度はさらなる積み重ねができるよう、指導していきたい。	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	2・3年生の影響を受けて、1年生の整容も良くなっている。授業についていけない生徒が少なからずいると思うが、一定の学力を身につけた上で卒業させてもらいたい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	身だしなみや私物の管理については指導を継続していきたい。今後はさらに、状況に応じた適切な行動と言葉遣いができるように指導していく。 今年度の成績が思わしくなかった生徒については、新年度の追認考査や定期考査に対する取り組み方について改善を促していきたい。	A
-----------------------	--	---

重 点 目 標	常に進路を意識した学校生活を送らせる。	P
現 状	学校生活における全てはこの目標に帰結されると思われる。入学時から事あるごとに意識付けを行っており、少しずつではあるが身についてきていると思う。	
具体的な目標	(1) 相手に伝わる声で返事、挨拶 (2) 自分で考えて意思表示 (3) 整容の徹底 (4) 整理整頓 (5) ベル着	
目標達成のための方策	(1) 毎日の授業を通しての指導 (2) 授業、集会を通しての指導 (3) 整容を含む日常からの指導 (4) ロッカー利用等の指導 (5) 朝学習、普段の授業での指導	
具体的な取組状況	(1) 見逃さず、できるまで何度でも指導する。 (2) 発表の機会を増やす。 (3) 授業を通しての指導。朝の整容チェック。 (4) 日常点検。回収。反省文。 (5) 見逃さない指導。報告の徹底。	D
達 成 状 況	(1) (2) 少しずつ意識の中に浸透しており、成長した生徒もいるが、入学以来進歩の見られない生徒もいる。 (3) (4) (5) 概ね達成されているが、時々、一部の生徒に徹底されていない場面が見られる。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	B	(1) (2) が不十分である。意識は浸透してきているので、今後進路に絡めて指導を強化していきたい。(3) (4) (5) は100%達成は難しいが、3学年でも指導を継続していきたい。	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	B +	これまでどおり、進路達成を意識した生活をおくっていくように、根気強く指導を行っていただきたい。入学以来、進歩が見られない生徒もいるということであるが、この子たちの家庭に問題があるのだろうか。授業では、生徒たちの発表の声が非常に小さかったので、はっきりと意思表示できる人になるように、先生方にはお手伝いをしてもらいたい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	発表の声が小さいというのは、目標(1)ができていない典型である。入学以来最も力を入れてきたことの一つが全く浸透していないということで、たいへん残念であり、指導力不足を痛感している。現在は生徒主体のSHR運営を実施するなどして改善を図っているが、来年度は面接指導の強化等を含め、進路指導と絡めた厳しい指導を徹底していきたい。		A
-----------------------	---	--	---

重 点 目 標	(1) 望ましい生活習慣を確立する。 (2) 基本的な学習内容の定着を図る (3) 希望進路を実現する。	
現 状	(1) 整容面は全般的に良いが、自ら正す姿勢のない生徒が数名いる。また、提出物を期限内に提出できない生徒も数名いる。 (2) 週末課題については、ほぼ全員がきちんと取り組んでいるが、提出できない生徒もいる。 (3) 昨年の求人票を熱心に調べるなど進路意識が高くなってきているが、自分の適性や能力をしっかりと把握していない生徒もいる。	
具体的な目標	(1) ①身だしなみ・挨拶・言葉遣い・マナー・私物管理の習慣を身につけさせる。 ②自ら考え判断する能力を身につけさせる。 (2) ①継続的な家庭学習や課題の提出を徹底させる。 ②社会人として必要な知識を習得させる。 (3) ①自己の適性を理解させ、進路を実現させる。	P
目標達成のための方策	(1) CLやHRを通して社会人としてのルールやマナーを認識させる。 (2) ①一般常識のテキストを持たせ、月1回チェックテストを実施する。 ②課題提出を習慣化させることにより、家庭学習を定着させる。 (3) ①進路ガイダンスや講演会から進路意識や職業意識を高めさせる。 ②進路適性検査や各種模擬試験を活用し、自己の能力や適性にあった学部や職種を選択させる。	
具体的な取組状況	(1) 身だしなみ・挨拶・言葉遣い・マナー・私物管理の習慣はほとんどの生徒は身につけているが、なかなか改善されない生徒もいる。 (2) 週末課題や一般常識のワークや計画的に模試を受験させ、基礎学力の向上に継続的に取り組んだ。 (3) 進路について、特に就職に関しては、積極的に行動できた生徒が多く、本校にとっては比較的早い段階で内定をもらうことができた。	D

達成状況	進学就職とも現段階でほとんどの生徒が、自分の進路を決定することができた。生徒のがんばりはもちろんだが、家庭の協力や先生方の多大なるご指導に感謝している。	
------	--	--

自己評価	(評価) B	(根拠) 3年間継続した指導をしてきたと思っているが、職員構成の変化や特定の生徒の指導により、なかなか全体を引き上げる統一性のある指導ができなかったと反省している。	C
------	-----------	---	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 雪祭りやうどんサミットに多くの生徒がボランティアとして活動した。生徒の3年間の継続したボランティア活動への参加が、生徒の成長につながった。	C
------------	-----------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	原級留置者5名を含む81名でスタートしたが、途中で4名退学した生徒もいたものの、3年間を通じて問題行動もほとんどなく、比較的安定した学校生活であった。ただ、精神的に不安定な生徒も数名出て、その生徒の指導には苦慮した。進路に関しては就職希望者が多く、苦勞することが予想されたが、担任はじめ学年部職員の協力で比較的早く内定をもらう生徒が多かった。	A
-----------------------	---	---

重点目標	(1) 儀式・行事等の円滑な運営と実施 (2) PTA活動の充実	P
現 状	(1) 全教職員の協力をいただき、入学式やPTA総会等の儀式・行事を滞りなく実施できている。 (2) PTA役員を中心に高P連等の活動への積極的な参加や協力体制が整いつつある。しかし春のPTA総会の出席者数は昨年比、減少しており課題である。	
具体的な目標	(1) 校内各分掌と連携を深める。 (2) 保護者との連携を図り、PTA活動への参加率向上に努める。 (3) 地域や校外諸団体との連携を深め、広報活動に努める。	
目標達成のための方策	(1) 可能限り情報の共有ができるように努める。 (2) PTA行事等の計画・準備への取り組みを早め、より精度の高い情報発信や対応ができるよう努める。 (3) 高等学校PTA連合会等との連携に努める。	
具体的な取組状況	(1) 儀式・行事についての起案では、関係の分掌（主任）に回覧して実施するように努めた。 (2) 行事等の実施にあたっては、早めの計画・立案を行い周知に努めてきた。 (3) 高P連への連絡・報告・相談を迅速におこなってきた。	D
達成状況	(1) 他の分掌との意思の疎通に努めることができた。 (2) 分掌内の各担当者の早めの対応で円滑な運営ができた。 (3) 会議等への出欠の連絡は、時間的に余裕をもって対応することができている。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	B	具体的な目標と目標達成のために方策をそれぞれ三つ立て、総務部員が協力し合って仕事を進めてきた。他の分掌や教職員にも協力をしていただき、(1)については、目標達成することができた。 (2)については、特にPTA総会や学年PTAなどにおいて、更なる充実までには至らなかった	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見) 意見)	C
	B	・PTA総会の出席率が低い、早めに連絡することで改善されると思う。 ・重点目標の(1)については、大変よくやられていると思う。(2)のPTAについては、保護者の学校に対する興味をもてるような工夫が必要と思う。学年PTAの回数を増やす、PTA後の学級懇談をするなどして、保護者がPTAに参加しやすい体制をつくってはどうか。地域への情報の発信・活動紹介はよく取り組んでいる。継続してほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・PTA行事等の計画・準備への取り組みを従来よりさらに早め、より精度の高い情報発信や対応ができるよう努める。たとえば、インターネットを活用した学校のお知らせシステム「eメッセージpro2」を利用してPTAの情報を発信することを検討したい。 ・勝高祭での「PTA屋台」の他に保護者の方が生徒とともに学校行事に参加できる機会がないかどうか検討したい。	A
-----------------------	--	---

重 点 目 標	(1) 生徒に確かな学力を身に付けさせる (2) 新学習指導要領への円滑な移行を図る (3) 教務関係事項の改善を図る	
現 状	(1) 入学段階での基礎学力の低い生徒が多く、授業への意欲を失っている生徒もいるので、基礎基本に立ち返って確実に知識をつけさせる必要を感じている。 (2) 全教科が新課程に移行したので、生徒の現状に合わせた授業展開を実践する必要がある。 (3) スムーズな学校運営のためには教務の仕事が重要である。	
具体的な目標	(1) 基礎的な学力の養成 (2) 基礎基本の充実を目指した教育課程の実践。 (3) 教務関係業務をバランスよく分担し、円滑に実施する。	P
目標達成のための方策	(1) 習熟度別授業、少人数授業の工夫、生徒のスキルアップの工夫。 (2) 各教科・各分掌・各学年と連絡を密にし、生徒の実態を踏まえたうえでより魅力ある教育課程を実践する。 (3) 教務部内で連携を深め、複数の目で確認しながら業務を進めていく。	
具体的な取組状況	(1) 習熟度別授業、少人数授業だけでなく各授業において授業改善が取り組まれており、生徒のスキルアップに努めている。 (2) 個々の生徒の実態を踏まえ、日々の教育活動を通し、教育課程が実践されている。 (3) 日々の業務を教務部員が協力し合い運営している。	D
達成状況	(1) 各教員が1時間毎の授業に工夫を凝らして取り組んでいる。 (2) 基礎を踏まえ、それぞれの生徒が自分で選択した系統において、自己の将来に向け学習活動に取り組んでいる。 (3) 円滑に業務が運営されている。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	A	日々、適切な業務分担をすることによって、円滑に業務が遂行されている。教育課程についても、生徒の実態に即して編成され、各教科、各学年と連携し生徒のスキルアップにつながっている。	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	達成すべき目標が多く、取り組むには大変だと思うが、学校の特色を出すためにもポイントを絞りながら活動をしてほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒がわかる授業に向け、各先生方には1時間1時間の授業に工夫を継続してもらおう。また、生徒の進路希望達成に向けた教育課程の検討を継続する。そして円滑な学校運営に向け部員が協力し業務を遂行していく。		A
-----------------------	--	--	---

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	(1) 基本的生活習慣を身につける指導に努める (2) 自主・自立の精神を養い、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める (3) 地域や家庭との連携を図りながら、相互の協力態勢を整える	P
現 状	全般的にしっかりした学校生活を送ることができている。 一部に考え方の甘い生徒はいるが、注意や指導を受けると整容や生活習慣を見直すことができる。ただ、当たり前のこととして定着するには至っていない。	
具体的な目標	(1) 整容指導の充実 (2) 携帯電話に関する指導の充実 (3) 生徒の私物管理の徹底	
目標達成のための方策	(1) 生徒相互が整容の乱れに気づくことができるように服装や頭髪の指導を充実させる (2) 携帯電話の指導を早期に徹底することにより、生徒が事故等に巻き込まれないようにしていく (3) 私物の持ち帰りや学校へ必要ない物を持ち込まない指導の徹底	
具体的な取組状況	整容指導や携帯電話の指導に関しては、基本的生活習慣の確立と関連しており学年ごとに徹底した指導を行ってもらっている。また、私物の管理に関しても勉強道具の持ち帰りなど担任、学年部を中心に粘り強く取り組んでもらっている。	D
達成状況	1学期早々、1年生で携帯電話の不正使用の問題が発覚した。結果的に見ればその際の厳しい指導のおかげで、その後の生活全般に緊張感が生まれたといえる。来年度以降は今年度の経験を生かして未然防止に努めたい。整容に関しては特に問題はなく、指導にも素直に従ってくれている。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	A	1 学期早々に発覚した 1 年生の携帯電話の不正使用に関しては学年部の迅速な対応により、拡大を未然に防ぐことができその後も適度な緊張感を維持した生活が送られている。整容を中心とした基本的生活習慣の確立の指導に関しては担任や学年部を中心に常日頃の粘り強い取り組みが現在の雄勝高校の状況に結びついている。	

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	生徒は年々良くなっているように感じる。学校内外でも努力している結果だと思う。 当たり前のことを当たり前でできる生徒であってほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	携帯使用に関する指導では、今年度の反省から問題を未然に防ぐ対策として入学説明会における講習会の実施を計画している。また、生徒指導の立場からも新入生への注意の喚起を強調したいと考えている。 整容指導に関しては、これまでの指導の成果により落ち着いた状態が維持できているので、今後も丁寧な指導を継続していきたい。		A
-----------------------	---	--	---

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	(1) 心身の発達、個性の身長、集団の一員としての資質を育む (2) 自主的、主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む	P
現 状	言われたことはひたむきに取り組んでいる姿が多く見られる。しかし、自ら行動を起こす力に欠け、指示待ちの状態もある。	
具体的な目標	(1) 学校行事や生徒会活動、ボランティアに積極的に参加する態度の育成 (2) 部活動の活性化	
目標達成のための方策	(1) 生徒会や委員会からの広報活動を活発に行う (2) 主将会議を年3回以上開催し、学校の代表としての自覚を促す	
具体的な取組状況	(1) 良い状況にあると思う。校舎内に様々な掲示物がされており、生徒の自発的態度を促していると感じる。 (2) 3度実施できた。4月、11月、1月とそれぞれ課題は違うが、自分たちの立場を確認できたと思う。	D
達成状況	(1) 概ね達成できた。が、委員会の活動状況に差があるように思うので、全ての委員会の活発な活動を促したい。 (2) 達成できた。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	A	(1) (2) が概ね達成できている。反省としては、広報活動が短期間で終了する、活動状況に差がある、また組織として生徒会長の権限やリーダーシップを発揮できるように促せなかったことである。引き継ぎを行いたい。 部活動は活発に行われていると思うが、部員の減少が大きな問題である。改善の見通しは今のところ難しいと感じている。	

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	ボランティア活動などで積極的に仕事や活動が行われていると思うが、欲を言えば、その仕事や活動が誰かの模倣になるのではなく、より自発的な活動になるように、指導されればさらに向上するのではないかと思う。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	本校の重点目標である集団の一員や自主的・主体的な生活態度に直接関わってくる課題である。その解決のためには、普段からの教育活動全体を通した指導が不可欠であると感じる。一部の生徒が頑張るのではなく、雄勝高校全体で行うというような雰囲気作りが大切ではないかと思う。生徒会長を中心とした委員会活動での一人一役や部活動の更なる活性化のために部活動紹介・勧誘を単なるイベントで終わらせないようにしていきたいと思う。	A
-----------------------	--	---

重点目標	将来の行き方・生活のしかたを考えさせ、主体的に自己の進路を決定させ、志望を達成させる。	P
現 状	多くの生徒は進路講話・インターンシップ等、多くの行事を通して、自分自身を見つめ、進路目標を具体的にしながら学年を上がり、進路実現をしている。その一方で、受験する学校や事業所を最後まで主体的に絞りきれない生徒も多くいる。個人面談や3者面談を通して受験先を最終的に決定しているが、アルバイトなど安易な方向に進みがちな傾向もあるのが問題点である。	
具体的な目標	(1) 生徒の人生設計や職業観・勤労観など望ましい生き方を確立させる。HR活動や総合的な学習の充実 (2) 学力向上のため、補習授業の強化 (3) 社会生活に必要な基本的生活習慣を確立するための指導	
目標達成のための方策	(1) 進路ガイダンス、社会人講話、卒業生講話、3年生から1・2年生への講話などにより人生設計を考えさせる (2) 平日、放課後の補習を計画的、継続的に実施する (3) 1年会社見学、2年インターンシップ、3年職場研修・模擬面接などの活動により基本的習慣、規範などを徹底する	
具体的な取組状況	全校生徒対象の進路講話や各学年における事業が、計画通り実行されてきた。特に各学年の事業については、事前指導による意識付けや事後指導による振り返りが行われるなど、個に応じた非常に丁寧な指導がなされてきたと感じている。	D
達 成 状 況	各進路事業を通して、生徒一人一人の進路意識やコミュニケーション能力を向上させ、その後の高校生活にプラスの影響を与えていると思う。各進路講話では、自ら質問するなど例年よりも積極性が見られた。3年生の就職は、例年より早い段階でほとんどの生徒が内定をもらえた。進学については、まだ受験中の生徒が数名いる。	

自己評価	(評価) A	(根拠) 現在(1/22)、3年生の進路志望達成率は89.6%であり、昨年度より約10%高い。1回目の就職試験での合格率が、昨年度の約34%から今年度の約57%に上がったことで、全体的に内定の時期が早まった。ただし、9月以降に進路変更をする生徒が若干名いたことが反省点の1つである。各学年部の丁寧な指導により、1,2年生の段階から具体的な進路希望を持っている生徒が増えてきていると感じている。景気や社会情勢が悪化しても戦っていくことのできる、生徒の学力とコミュニケーション能力などの力をさらに高めていく必要がある。	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・進路希望について家庭内で意見が一致しないことを防ぐために、家庭との面談を早めに実施すべき。 ・職業のミスマッチをなるべくなくす努力を続けてほしい。 ・進路実現のために必要なのは、自己表現できることと相手の話を聞くことができることに尽きると思う。様々な場面を通じてそのような力を育ててほしい。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・3年の7月末から8月にかけて、必要に応じて保護者面談または3者面談を行い、進路希望に対する親の同意を確認する。本人と親だけでなく、父親と母親の意見が一致していない家庭もあるため、日頃の個人面談や進路希望調査などを通じて情報を得る。進路希望調査には親からのコメントを書いてもらうようにする。また、進路に関わる保護者面談は、保護者から希望しても随時実施できることをPTAなどで呼びかける。 ・3年生の希望事業所をできるだけ早く決定し、職場体験事業や応募前職場見学に確実に参加させる。	A
-----------------------	---	---

重 点 目 標	校内外における研修の充実を図り職員の資質の向上に努める	P
現 状	本校には、中学までの学習内容がしっかりと身につけていない生徒も多くいる。そのような生徒にとってもわかる授業を実践していくためには、教職員は授業法等を研究したり工夫していく必要がある。そのため研修部では授業力向上に結びつくような研修を企画したり、校外研修への参加を勧めている。	
具体的な目標	(1) 授業参観研修・授業研究会などの充実 (2) 各種研修の情報提供と参加促進	
目標達成のための方策	(1) お互いに授業を見学しあい感想を記入する。まとめたものを職員会議内で報告しそれを各自の授業改善に役立てていく。 (2) 研修への参加終了後、内容等を職員会議内で報告し全職員でその成果等を共有する。	
具体的な取組状況	(1) 校内授業参観研修の実施（6月・9月の2回） 授業研究会の実施（10月） (2) 予備校の研修（授業法研究）に参加（8月）	D
達成状況	(1) 校内授業参観研修 → 実施した翌月の職員会議（7月・10月）で授業の感想のまとめを報告し、授業改善のヒントを共有できるようにした。 授業研究会 → 各分科会で、工夫が見られる点やより良い授業になるためのアイデア等を当日内の全体会で報告しあうことにより、授業改善のための方法を共有しあった。 (2) 9月の職員会議内で内容を報告し、その成果等を共有した。	

自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	A	アンケートによれば、授業の成果に対する満足度が上昇していることから、よりわかる授業を実践するための工夫が反映されてきていると考える。	

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	授業見学は良い方法である。 研修は自分のためだけではなく、学校のためにもなるので積極的に参加をしていただきたい。 引き続き、授業改善を行っていただきたい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・校内授業参観研修や授業見学の実施と、授業改善のための方法等を共有しあい、各自の授業に工夫を凝らしていくことを継続していく。 ・引き続き、各種研修等の情報を提供し参加促進を図っていく。		A
-----------------------	---	--	---

重点目標	(1) 心身の健康を自ら保持増進していく基本的な生活態度・習慣を身につけさせる (2) 校舎内外の環境整備に努め、安全で清潔な学習環境を整える (3) 学習や社会生活上の困難を抱える生徒について、自己理解を深めさせるとともに、全職員の共通理解を図る	
現 状	(1) 自己管理ができていない生徒が、一部見られる。高校卒業後、社会人として自立できることを目指して指導する必要がある。 また、思春期特有のことではあるが、学校生活や家庭生活の中の様々な悩みを抱える生徒も多い。 (2) 校内の清掃状況は、おおむね良好である。 (3) サポートを必要とする生徒が在籍している。学習や社会生活上の困難を認識させ、自己理解を深めさせる必要がある。	
具体的な目標	(1) 心身ともに健康的な生活をおくるための態度と習慣の育成 (2) 校内外の環境美化の推進 (3) サポートを必要とする生徒についての実態把握と情報提供、共通理解	P
目標達成のための方策	(1) 保健便りの定期的な発行、保健講話の実施 スクールカウンセラーの活用 各学年部への迅速な情報提供と連携 (2) 保健委員会による美化活動 (3) クラス担任及び教科担任と学習サポーターとの連携強化 頻繁な情報交換と情報提供、サポートの見直し 職員研修会の実施	
具体的な取組状況	(1) 機を逃さず保健便りを発行した。「カウンセラー便り」もその中に入れることができた。養護教諭と担任との連絡が迅速にできた。 (2) 校舎安全点検を実施した。モップ交換等の仕事を保健委員がきちんと行った。 (3) 学習サポーターに授業補助、補習補助を実施してもらった。	D

達成状況	(1) 一人ひとりの生徒は少しずつ成長していると思うが、人間関係の悩みや精神面の不調のため保健室を訪れる生徒がいる。 (2) 概ね達成されたと思う。 (3) サポーターと職員の連携が強化され、効果があったと思う。	
------	---	--



自己評価	(評価) B	(根拠) (2) (3) については概ね目標を達成できたと思うが (1) については「これでよし」ということはないため。	C
------	----------------------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) B +	(意見) 生徒への保健室カウンセラー的機能は、利用が多いのは困るが大事である。生徒が悩みなく生活できるように頑張っているほしい。 取り組みは評価できる。B+の評価であろう。	C
------------	------------------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	精神面の不調で保健室を訪れる生徒への対応について、今後も学年部と迅速な連携を図っていききたい。その中で、なるべく授業に戻らせるような対応が必要だと感じる。生徒の悩みをなくすことは不可能だとは思いますが、少しずつでも自分で問題解決できる力を、学校生活全般を通して育てていかなければならないと思う。	A
-----------------------	--	---

重点目標	図書（１） 利用しやすい図書室づくり 情・視（１） 情報・視聴覚機器の活用 （２） 校内LANの活用	P
現 状	図書 県立図書館や湯沢市の図書館からいろいろな本を借りるなど工夫がなされている。 情・視 DVDを利用した授業が実施されている。 校内LANに関しては、業務系・学習系ともに活発に活用されている。	
具体的な目標	図書 （１）図書室の環境整備 （２）図書委員会の活動の活性化 情・視 （１）IT・視聴覚機器を活用した授業実践 （２）情報管理システムの整備・強化	
目標達成のための方策	図書 人気著書等の情報収集 情・視 新しいIT・視聴覚機器の情報収集	
具体的な取組状況	図書 雄勝図書館、湯沢図書館、県立図書館の活用。 図書購入。 情・視 ホームページの更新。 ICT・視聴覚機器の情報収集	D
達成状況	図書 図書室の環境整備、委員会の活動とによかった。 情報 ネットワーク管理に関しては無難にこなせてよかった。 視聴覚 実物投影機の購入、活用法を検討している段階である。	



自 己 評 価	(評価)	(根拠)	C
	A	利用しやすい図書館作りのためにさまざまな工夫を取り入れており、ネットワークの管理も問題なく行うことができた。	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価)	(意見)	C
	A	今後も生徒に本を読んでもらうための取り組みは続けていってほしい。そのためには、雄勝図書館などもどんどん活用してほしい。	



自己評価及び 学校関係者評 価に基づいた 改善策	・ これまでも雄勝図書館、湯沢図書館、県立図書館から図書の貸し出しを受けてきたが、今後も生徒が利用しやすい図書館の環境整備を継続していく。	A
	・ 現在パンク状態のサーバーの容量不足を各分掌の先生方の協力を得て解決し、ネットワークの管理をしていきたい。	